

国際シンポジウム

先住権としての 川でサケを獲る権利

イオル
海と森と川に生きる先住民の集い

2023年5月26日 Fri. ~ 28日 Sun.

開催地 北海道十勝郡浦幌町

参加費 無料

主催 ラポロアイヌネイション

共催 北大開示文書研究会、北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーション

日本でアイヌ民族が「先住民族」と認められたのは、2019年にアイヌ施策推進法が成立してからのことです。しかし、この法律によっても自然資源権などの先住権は一切認められていません。

そこで、私たちは、オーストラリア・台湾・カナダ・フィンランド・アメリカから、海や川での漁業権の回復を果たしてきた先進的な先住民や研究者をお招きして、シンポジウムを開催することにしました。私たちアイヌが先祖のように川や森の恵みを受けた暮らしをとり戻すにはどうしたらよいか、みなさんと共に学びたいと考えています。

5/26
Fri.

14:00 ~ 開会セレモニー

会場：浜厚内生活館（浦幌町字厚内 2-4-18）

◎ラポロアイヌネイションによる歓迎のカムイノミ

◎ゲスト住民によるアピール、パフォーマンス、レセプション・交流

27
Sat.

午前 浦幌十勝川、チャシ跡などのフィールドワーク

参加先住民限定です

14:00~

国際シンポジウム **ご自由にご参加ください**

会場：コスミックホール（浦幌町字本町 100）
*JR 浦幌駅前

PART I 14:00 ~ 18:30 ◎海外先住民ゲストの講演

28
Sun.

PART II 9:00 ~ 11:45 ◎海外先住民ゲストの講演

PART III 12:45 ~ 16:30 ◎車座トーク ~ラポロと海外先住民ゲストの語り合い

*ゲスト講演は映像をまじえ、通訳をとおしたわかりやすいお話を予定しています

*両日、北大から取り戻した墓地副葬品などのロビー展も開催予定（協力：浦幌町立博物館）

本シンポジウムはパタゴニア環境助成金プログラムの支援により開催します

patagonia

招聘ゲストのご紹介

●アスラック・ホルンバルグさん (Aslak Holmberg)
＜フィンランド＞ サーミ議会議長

●アモス・リンさん (Amos Lin) ＜台湾＞
台湾原住民・アミ族。退職警官、台東大学オーストロネシア文化研究科修士。漁のとき、取り締まりにより漁具が没収され訴訟で争った経験を持つ。

●アウェイ・モナさん (Awi Mona) ＜台湾＞
台湾原住民・セディック族の出身。国立東華大学法学部准教授、学部長 (原民法)。台湾で初めて法学博士号を取得した先住民族である。台湾の地域コミュニティと先住民族の権利運動について幅広い共同作業を行う人権法学者。

●マラオスさん (Maraos) ＜台湾＞
台湾原住民・ヤミ族 (タオ族) の出身。財団法人原住民族文化事業基金理事会長を務める。専門は文化基金会運営、ドライブの地方創生、先住民族開発学、文化評論、ドキュメンタリー制作、オーストロネシア語族文化研究と国際交流、航海文化の推進。

●ラス・ジョーンズさん (Russ Jones) ＜カナダ＞
カナダのハイダ・グアイのチーフで、ハイダ・ネイションの評議員。現在、太平洋サケ委員会の委員。ハイダ・グアイは前浜での漁業権を獲得している。

●ジョー・ワトキンスさん (Joe Watkins) ＜アメリカ＞
チョクトー族 (Choctaw) 出身。アメリカの先住民考古学のリーダー的存在であり、前アメリカ考古学会会長。2022年7月より北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーションに在籍。

●ダニー・チャップマンさん (Danny Chapman) ＜オーストラリア＞
ユーインネイション (Yuin Nation) (オーストラリア東南海岸に暮らす“アボリジナルの人々”の集団) のワルブンジャ (Walbunja) のクランに属している。海岸の環境に暮らすソルトウォーターマン (Saltwater man) である。土地の権利に関する請求、健康と教育など、“アボリジナルの人々”の権利とネイティブタイトル (先住権) の実現のために活動をしている。

●キャサリン・リッジさん (Kathryn Ridge) ＜オーストラリア＞
弁護士。先住民の漁業権をめぐる裁判に多く関り、漁業刑事告発のすべての弁護を成功させ、サウスコーストの人々を守っている。シドニー工科大学人文社会科学部の博士課程に在籍し、歴代の植民地政府が天然資源 (漁業、水) に関しアボリジナルの人々の権利をいかに侵害してきたかを調査している。

開催にあたり



加藤 博文さん (北海道大学 先住民・文化的多様性研究グローバルステーション長、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター長)

北の大地を流れる川には多くのサケが遡上し、そこに住む人々はカムイの恵みに感謝して暮らしてきた。今、ラポロの人々が求めていることは、かつてのようにサケを捕り、その恵みに感謝を行うことである。

今回のシンポジウムでは浦幌十勝川が太平洋へ注ぐラポロの地に世界各地の先住民族の代表が集う。彼らの何人かは自ら漁業に関わり、かつ権利回復に取り組んできた。皆、ラポロの人々の取り組みに共鳴し、このシンポジウムへの参加を表明している。

先住権をめぐる新たな議論がここから始まることを期待する。

応援メッセージ



宇梶 静江さん (詩人、古布絵作家)

浦幌十勝川を見たとき、「なんと雄大でいい川だろう」と思いました。サーモンピープルに会うためにアメリカに行って、この川で先祖のようにサケを獲りたいと思うようになったラポロの皆さんの気持ちがよくわかります。

先住権の運動を力強くすすめるラポロアイヌネイションを応援しています。



ラポロアイヌネイション HP
<http://raporo-ainu-nation.com>



ご寄付の
お願い

本事業へのご支援をお願いいたします

* 寄付口座 ゆうちょ銀行振込口座 02750-3-71188

* 他行から送金 預金種目：当座
店名：二七九店 (ニナナキウテン)
口座番号：0071188

* 口座名義 ラポロアイヌネイション

お問合せ ▶ 北大開示文書研究会

〒077-0032 留萌市宮園町 3-39-8 三浦忠雄方

電話・FAX 0164-43-0128 メール ororon38@hotmail.com

*お電話に直ぐ対応できない場合がありますので、お問い合わせは、できるだけメールでお願いします



クラウドファンディング
実施中!

こちらもご支援ください
2023年3月31日まで



*本事業は多くのみなさまのご支援・ご協力により運営いたします

【協賛団体 (敬称略)】パタゴニア日本支社、日本森林生態系保護ネットワーク、カトリック札幌教区正義と平和協議会、日本基督教団北海道教区、日本基督教団北海道教区アイヌ民族情報センター、道北クリスチャンセンター、北海道クリスチャンセンター、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」、コタンの会、十勝自然保護協会、NPO法人みみをすますプロジェクト、網走アイヌ協会、アイヌサケ捕獲権確認請求事件弁護団、川村カトアイヌ記念館、浦幌町商工会、一般社団法人自然の権利基金、日本環境法律家連盟 (JELF)、真宗大谷派北海道教区、日本カトリック正義と平和協議会、札幌地域労働組合、市民フォーラム十勝、森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト、北海道宗教者平和協議会、静内アイヌ協会、一般社団法人メノコモシモシ、大雪と石狩の自然を守る会、北海道アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、帯広アイヌ協会、沖縄合同法律事務所、一般社団法人北海道自然保護協会、有限会社かりん舎、エンチウ協会、日本国民救済会北海道本部、浄土真宗本願寺派北海道教区事務所、週刊金曜日、日本聖公会北海道教区宣教活動推進部、一般社団法人NARMAIモンゴル、日本宗教者平和協議会、少数民族懇談会、アオテアロア・アイヌモシ交流プログラム実行委員会、自由法曹団北海道支部【賛同人 (敬称略)】清未愛砂、宮内泰介、遠井朗子、Atuy、杉田聡、Tessa Morris-Suzuki、鄭炳浩、八重樫仁志、谷脇和仁、金井塚務、小泉雅弘、宇梶静江、木村真希子、黒田太士、平山裕人、植木哲也、上村英明、畑地雅之、高月勉、坂田美奈子、鶴澤加奈子、榎森進、小田博志、葛野次雄、神谷広道、常田益代、宇佐照代、小坂洋右、木村二三夫、小野有五、榎木貴美子、籠橋隆明、広瀬健一郎、沖津翼、忍関崇、石堂了正、石純姫、原島則夫、加藤裕、小川早苗、坂本工、加藤泰和、日笠和也、久保田真剛、豊田靖史、辰田真弥、生駒晃英、仙石裕子、島田あけみ、多原良子、田澤守、鈴木一、井上勝生、菅野志朗、亀田成春、栗原さよ子、米永明恵 (2023年2月27日現在)

協力 ● アイヌ刺繍文様：廣川和子、レイアウトデザイン：佐藤裕子 (佐藤デザイン室)